＜前回＞病の癒やし・譬え・共同生活

（１）イエスの奇跡物語（治療奇跡）

１．聖書学的に奇跡物語をどのように解釈するか

２．「悪霊に取りつかれたゲラサ人をいやす」（マルコ 5.1-20）

３．新約聖書学の代表的議論から：荒井献

・奇跡物語の最古層、帰還命令

→ 「癒やし」とは何か、その社会的次元。癒やしとは病によって壊れた人間関係が回復されることにおいて完結する。

４．ポイント → 医療人類学を参照する。

・疾病（disease）：身体的、心的。基本的に特定の次元に限定。治療。
病（illness）：精神的・宗教的を含む全人格的態度、複数の次元が複合的に関与する。

・奇跡は物理的現実である前に社会的現実である。奇跡の癒やしは家族への帰還で完成。
癒しの社会的次元：関係性の回復という奇跡
和解のない世界、「にもかかわらず」
治療がなされなくても癒やしが起こることはあり得る。

・しかし、これは、驚くべき出来事＝恩恵・贈与＝神の国

５．イエスの宗教運動は、「神の国」を共同体レベルでわかち合うものであった。これは、病の癒やしを伴っていた。

（２）実例２

６．「五千人に食べ物を与える」（ヨハネ 6.1-15）

７．食糧携帯を当時の一般的な旅の仕方。自分（たち）が食べるため。
食べ物の提供を一人の少年が率先して行ったときに、人々（大人たち）がそれに倣って食べ物の分かち合いを行ったとすれば、それは奇跡であるが、そこに「神の国」が経験された、と言えないか。

（３）旅と神の国

８．癒やしの実践と移動式「神の国」運動。
定住（新宗教によく見られるパターン。治癒能力者を核とした組織化）ではなく、移動。

10.「神の国」はブローカーの斡旋によるものではなく、向こうの方からすべての人のところにやってくる（「神の国は近づいた」）。

11. 神学と旅との本質的関わり。フィリピ 3.13-14。旅は、「神の国」の現実に即応する。

４．イエスの宗教運動から初期キリスト教へ

＜年表＞

前 4 以前：イエスの誕生
前 4：ヘロデ大王死
後 26-36：ユダヤ総督ポンティウス・ピラトゥス
28 頃：洗礼者ヨハネ登場、イエスの受洗
30 頃：イエスの十字架死
32 頃：ステファノ殉教
33 頃：パウロの回心
47 頃：「主の兄弟」ヤコブ、エルサレム教会の長に。パウロの「第１回伝道旅行」
48 頃：パレスチナ大飢饉、エルサレム使徒会議
49-52 頃：パウロの「第２回伝道旅行」
53-56 頃：パウロの「第３回伝道旅行」
54-68 頃：ネロの在位

56 頃：パウロ、エルサレムで逮捕
61/2：パウロの処刑
62：「主の兄弟」ヤコブの殉教
64：ローマ市の大火、ペトロの殉教
66 頃：エルサレム原始教会、ペラに（？）脱出
66-70：第１次ユダヤ戦争
70：エルサレム滅亡
73：要塞マサダ陥落
70 年代：パレスチナ・ユダヤ教はヤブネ体制を構築
90 年代：ユダヤ教、（旧約）聖書正典を確立
95 頃：小アジアでキリスト教迫害
98-117：トラヤヌス帝在位
132-135：第２次ユダヤ戦争（バル・コクバの乱）

（１）宗教運動の担い手たちにとってのイエス

「16:13 イエスは、フィリポ・カイサリア地方に行ったとき、弟子たちに、「人々は、人の子のことを何者だと言っているか」とお尋ねになった。14 弟子たちは言った。「『洗礼者ヨハネだ』と言う人も、『エリヤだ』と言う人もいます。ほかに、『エレミヤだ』とか、『預言者の一人だ』と言う人もいます。」15 イエスが言われた。「それでは、あなたがたはわたしを何者だと言うのか。」16 シモン・ペトロが、「あなたはメシア、生ける神の子です」と答えた。17 すると、イエスはお答えになった。「シモン・バルヨナ、あなたは幸いだ。あなたにこのことを現したのは、人間ではなく、わたしの天の父なのだ。18 わたしも言っておく。あなたはペトロ。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てる。陰府の力もこれに対抗できない。19 わたしはあなたに天の国の鍵を授ける。あなたが地上でつなぐことは、天上でもつながれる。あなたが地上で解くことは、天上でも解かれる。」20 それから、イエスは、御自分がメシアであることをだれにも話さないように、と弟子たちに命じられた。」（マタイによる福音書）

「1:48 ナタナエルが、「どうしてわたしを知っておられるのですか」と言うと、イエスは答えて、「わたしは、あなたがフィリポから話しかけられる前に、いちじくの木の下にいるのを見た」と言われた。49 ナタナエルは答えた。「ラビ、あなたは神の子です。あなたはイスラエルの王です。」（ヨハネによる福音書）

「20:14 こう言いながら後ろを振り向くと、イエスの立っておられるのが見えた。しかし、それがイエスだとは分からなかった。15 イエスは言われた。「婦人よ、なぜ泣いているのか。だれを捜しているのか。」マリアは、園丁だと思って言った。「あなたがあの方を運び去ったのでしたら、どこに置いたのか教えてください。わたしが、あの方を引き取ります。」16 イエスが、「マリア」と言われると、彼女は振り向いて、ヘブライ語で、「ラボニ」と言った。「先生」という意味である。」（ヨハネによる福音書）

＊さまざまな期待において理解されたイエス。
　　預言者、メシア、神の子、イスラエルの王、ラビ・先生など
→　弟子集団の多様性・初期キリスト教の多様性

（２）初期キリスト教の歴史叙述＝キリスト教生成史

１．イエスの宗教運動からキリスト教会の形成まで

主要な資料：新約聖書の諸文書　→　新約学の研究領域
＋
隣接分野：同時代のユダヤ教研究
ヘレニズム文化史・宗教史
正典外資料(グノーシス主義諸文書)

２．新約聖書の記述の歴史性
・新約聖書はキリスト教共同体の文書であることをどのように考えるか。
ブルトマン：キリスト教神学はイエスからではなく初期キリスト教団のケリュグマ（宣教）より始まる。

・キリスト教会は単一か？　単線的に展開したのか？
パウロ書簡に見られる対立・論争が示唆すること。
「イエス　→　新約聖書諸文書（とくに福音書）とキリスト教会の成立」

３．「本書においては「原始キリスト教」という偏見のない名称が選ばれる。原始キリスト教の境界線はどこに引かれるか、と問われねばならない」（コンツェルマン『原始キリスト教史』日本基督教団出版局、22 頁）、「教会があるいは少なくとも重要な神学的思想家が､使徒時代という理念を作り上げ､それによって自分自身をこの時代から区別することにより、伝統に対して自らの関係を新しく規定する点において明らかな変化が示される。この自意識によれば､境界線はおよそ紀元一〇〇年頃に引くことができる。もちろん、その変化は固定的なものではない。」（23 頁）
「原始キリスト教は統一体ではないのである。」（23 頁）

４．イエスの宗教運動あるいは初期キリスト教の多様性
単線的な歴史像は後の再構成である。

５．初期キリスト論成立の問題
「われわれの問うべき問いはこうである。われわれは、イエスの死と復活という教会設立の原事件から､使徒会議以後のパウロの宣教の発展に至るまで､二十年足らずほどの間に起こった神の子キリスト論の展開を仮説的に再構成したいのであるが､その場合に、モザイクを繋ぎ合わせるかのようにして集められたこのユダヤ教資料が、どの程度まで助けになるか、という問いである。」（ヘンゲル、69 頁）

６．キリスト教はいつキリスト教になったのか？　キリスト教とは何か？
イエス／パウロ／パウロ以後

（3）キリスト教起源神話：イエスの宗教運動から初期キリスト教へ

１．ルカ文書と使徒言行録
「ルカの「神学」思想は、定められた神の計画によっていくつかの異なった時代を直線的に進んで行く救済史の思想である」、「救済史の神学は、実は、新約の主要文書の中ではルカ文書（ルカ福音書と使徒行伝）にしか出て来ないものであり、特に「ルカ的」思想なのだ」（田川、404-405）
・ルカ福音書：80-90 年頃
◆献呈の言葉
1:1 -2 わたしたちの間で実現した事柄について、最初から目撃して御言葉のために働いた人々がわたしたちに伝えたとおりに、物語を書き連ねようと、多くの人々が既に手を着けています。3 そこで、敬愛するテオフィロさま、わたしもすべての事を初めから詳しく調べていますので、順序正しく書いてあなたに献呈するのがよいと思いました。4 お受けになった教えが確実なものであることを、よく分かっていただきたいのであります。

・使徒言行録：90 年代
◆はしがき
1:1 -2 テオフィロさま、わたしは先に第一巻を著して、イエスが行い、また教え始めてから、お選びになった使徒たちに聖霊を通して指図を与え、天に上げられた日までのすべてのことについて書き記しました。
２．初期キリスト教の発展史的図式：イエス（30 年代）、パウロ（40-50 年代）
・イエスの宗教運動から初期キリスト教へ、エルサレム教会から異邦人伝道へ
一二弟子＝一二使徒／聖霊降臨＝教会／エルサレム教会・ペテロ／異邦人伝道・パウロ
・古代地中海世界へ：アンティオキア教会、パウロの伝道旅行・異邦人伝道
３．弟子たちの逃亡と復活のイエスの顕現
・ガリラヤ（マルコ、マタイ）かエルサレム（ルカ、ヨハネ）か。
「吾人はマルコおよびマタイに従って、ガリラヤ説を採る」（波多野、106）
ガリラヤへ逃亡した弟子たちへの顕現。
・ルカ：エマオ途上にて
「24:13 ちょうどこの日、二人の弟子が、エルサレムから六十スタディオン離れたエマオという村へ向かって歩きながら、14 この一切の出来事について話し合っていた。15 話し合い論じ合っていると、イエス御自身が近づいて来て、一緒に歩き始められた。16 しかし、二人の目は遮られていて、イエスだとは分からなかった。・・・」（ルカ）
・ヨハネ：エルサレムでの顕現（マグダラのマリヤ、弟子たち）→ティベリア湖畔で
20 章　21 章
４．イエスの昇天と助け手の派遣
「1:3 イエスは苦難を受けた後、御自分が生きていることを、数多くの証拠をもって使徒たちに示し、四十日にわたって彼らに現れ、神の国について話された。4 そして、彼らと食事を共にしていたとき、こう命じられた。「エルサレムを離れず、前にわたしから聞いた、父の約束されたものを待ちなさい。5 ヨハネは水で洗礼を授けたが、あなたがたは間もなく聖霊による洗礼を授けられるからである。」
「6 さて、使徒たちは集まって、「主よ、イスラエルのために国を建て直してくださるのは、この時ですか」と尋ねた。7 イエスは言われた。「父が御自分の権威をもってお定めになった時や時期は、あなたがたの知るところではない。8 あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。」9 こう話し終わると、イエスは彼らが見ているうちに天に上げられたが、雲に覆われて彼らの目から見えなくなった。（使徒言行録）
５．ペンテコステと教会の誕生
「2:1 五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まっていると、2 突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。3 そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。4 すると、一同は聖霊に満たされ、“霊”が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話しだした。5 さて、エルサレムには天下のあらゆる国から帰って来た、信心深いユダヤ人が住んでいたが、6 この物音に大勢の人が集まって来た。そして、だれもかれも、自分の故郷の言葉が話されているのを聞いて、あっけにとられてしまった。7 人々は驚き怪しんで言った。「話をしているこの人たちは、皆ガリラヤの人ではないか。8 どうしてわたしたちは、めいめいが生まれた故郷の言葉を聞くのだろうか。9 わたしたちの中には、パルティア、メディア、エラムからの者がおり、また、メソポタミア、ユダヤ、カパドキア、ポントス、アジア、10 フリギア、パンフィリア、エジプト、キレネに接するリビア地方などに住む者もいる。また、ローマから来て

滞在中の者、11 ユダヤ人もいれば、ユダヤ教への改宗者もおり、クレタ、アラビアから来た者もいるのに、彼らがわたしたちの言葉で神の偉大な業を語っているのを聞こうとは。」12 人々は皆驚き、とまどい、「いったい、これはどういうことなのか」と互いに言った。13 しかし、「あの人たちは、新しいぶどう酒に酔っているのだ」と言って、あざける者もいた。」（使徒言行録）

６．多様な弟子集団からパウロ的キリスト教へ

・ユダヤ的キリスト教、使徒会議(48/49)、ユダヤ戦争(66-70)

・ユダヤ戦争以降の状況が初期キリスト教とユダヤ教の分離・対立を引き起こした。

→ キリスト教のユダヤ教からの離脱

・パウロの異邦人伝道路線の線上における初期キリスト教

７．キリスト教の成立＝キリスト教起源神話の成立（パウロからルカ文書の間）

古代イスラエルの民族起源神話の改訂＝キリスト教起源神話への統合

古代イスラエルの正統な後継者としてのキリスト教

預言と成就、イスラエル民族から教会へ、旧約（旧い契約）から新約

↓ バートン・マック『誰が新約聖書を書いたのか』青土社。

一神教的伝統とイエスの神性の経験

（4）キリスト教の成立・まとめ

・キリスト教の成立は、「キリスト教の定義」によっていくつかの考え方が可能である。

イエスの宗教運動／ペンテコステ後のエルサレム教会／パウロ／

・・・／正統キリスト教の確立（４世紀）

１．キリスト教起源神話の成立＝キリスト教の成立

共同体の成立は、共同体の起源神話の成立において確認できる。

「日本」の成立は、記紀神話の成立期（大和朝廷）

２．古代イスラエル民族との関連性：

預言と成就、旧約に対する新約、メシアとしてのイエス。

パウロ神学

３．イエスの宗教運動との連続性：ルカ文書の意義、ペトロからパウロへ

パウロ的キリスト教の正統化、そこから歴史を描き直す（＝使徒言行録)。

↓

ユダヤ戦争以後、80 年代から 90 年代。

・「七〇年という年に､それまでのユダヤ教のいわば総本山であったエルサレムとその神殿体制が崩壊したとき、ユダヤ教イエス派は決定的な脱皮と独立の時期を迎えたのである。したがって、七〇年以降の同運動の姿を描くときから､「キリスト教」という言葉を使うことにする。」（佐藤、144）

（5）最初期のキリスト教の形

４．キリスト教の成立と展開の場としてのヘレニズム都市

ギリシャ語の世界へ

→ ギリシャ語による新約聖書の成立（１世紀後半)。

５．エクレシアという共同体

・エルサレムの共同体：ペンテコステ後（使徒言行録）

最初の教会における一致と対立：

生活・愛の共産主義、ヘブライオイとヘレニスタイ

「2:43 すべての人に恐れが生じた。使徒たちによって多くの不思議な業としるしが行わ

れていたのである。44 信者たちは皆一つになって、すべての物を共有にし、45 財産や持ち物を売り、おのおのの必要に応じて、皆がそれを分け合った。46 そして、毎日ひたすら心を一つにして神殿に参り、家ごとに集まってパンを裂き、喜びと真心をもって一緒に食事をし、47 神を賛美していたので、民衆全体から好意を寄せられた。こうして、主は救われる人々を日々仲間に加え一つにされたのである。」

「6:1 そのころ、弟子の数が増えてきて、ギリシア語を話すユダヤ人から、ヘブライ語を話すユダヤ人に対して苦情が出た。それは、日々の分配のことで、仲間のやもめたちが軽んじられていたからである。2 そこで、十二人は弟子をすべて呼び集めて言った。「わたしたちが、神の言葉をないがしろにして、食事の世話をするのは好ましくない。3 それで、兄弟たち、あなたがたの中から、“霊”と知恵に満ちた評判の良い人を七人選びなさい。彼らにその仕事を任せよう。4 わたしたちは、祈りと御言葉の奉仕に専念することにします。」」

・パウロのエクレシア（コリント１）

「12:27 あなたがたはキリストの体であり、また、一人一人はその部分です。28 神は、教会の中にいろいろな人をお立てになりました。第一に使徒、第二に預言者、第三に教師、次に奇跡を行う者、その次に病気をいやす賜物を持つ者、援助する者、管理する者、異言を語る者などです。29 皆が使徒であろうか。皆が預言者であろうか。皆が教師であろうか。皆が奇跡を行う者であろうか。30 皆が病気をいやす賜物を持っているだろうか。皆が異言を語るだろうか。皆がそれを解釈するだろうか。31 あなたがたは、もっと大きな賜物を受けるよう熱心に努めなさい。」

６．家の教会と女性：

・ローマの信徒への手紙

「16:1 ケンクレアイの教会の奉仕者でもある、わたしたちの姉妹フェベを紹介します。2 どうか、聖なる者たちにふさわしく、また、主に結ばれている者らしく彼女を迎え入れ、あなたがたの助けを必要とするなら、どんなことでも助けてあげてください。彼女は多くの人々の援助者、特にわたしの援助者です。3 キリスト・イエスに結ばれてわたしの協力者となっている、プリスカとアキラによろしく。4 命がけでわたしの命を守ってくれたこの人たちに、わたしだけでなく、異邦人のすべての教会が感謝しています。

6 あなたがたのために非常に苦労したマリアによろしく。

7 わたしの同胞で、一緒に捕らわれの身となったことのある、アンドロニコとユニアスによろしく。この二人は使徒たちの中で目立っており、わたしより前にキリストを信じる者になりました。

10 真のキリスト信者アペレによろしく。アリストブロ家の人々によろしく。

11 わたしの同胞ヘロディオンによろしく。ナルキソ家の中で主を信じている人々によろしく。

13 主に結ばれている選ばれた者ルフォス、およびその母によろしく。彼女はわたしにとっても母なのです。

15 フィロロゴとユリアに、ネレウスとその姉妹、またオリンパ、そして彼らと一緒にいる聖なる者たち一同によろしく。16 あなたがたも、聖なる口づけによって互いに挨拶を交わしなさい。キリストのすべての教会があなたがたによろしくと言っています。」

・コリント１：

「16:19 アジア州の諸教会があなたがたによろしくと言っています。アキラとプリスカが、その家に集まる教会の人々と共に、主においてあなたがたにくれぐれもよろしくとのことです。」

＜参考文献＞

０．波多野精一『基督教の起源』（1908 年）岩波文庫。
１．Ｆ・Ｆ・ブルース『イエスについての聖書外資料』教文館。
２．Ｈ・コンツェルマン『原始キリスト教史』日本基督教団出版局。
『時の中心――ルカ神学の研究』新教出版社。
３．ボーグ『イエス・ルネサンス』教文館。
４．クロッサン『イエス――あるユダヤ人貧農の革命的生涯』新教出版社。
５．芦名定道・小原克博『キリスト教と現代――終末思想の歴史的展開』世界思想社。
６．バートン・Ｌ・マック『失われた福音書――Q資料と新しいイエス像』、
『誰が新約聖書を書いたのか』青土社。
『キリスト教という神話――起源・論理・遺産』青土社。
７．田川建三『原始キリスト教史の一断面』勁草書房。
８．荒井献『原始キリスト教とグノーシス主義』岩波書店。
『使徒行伝　上中下巻』新教出版社、1977/2014/2016 年。
『新約聖書の女性観』岩波書店。
９．松永希久夫『歴史の中のイエス像』ＮＨＫブックス。
10．土戸清『初期キリスト教とユダヤ教――ヨハネ福音書研究の諸問題』教文館。
11．マルティン・ヘンゲル『神の子――キリスト教成立の過程』山本書店。
12．ヤロスラフ・ペリカン『イエス像の二千年』講談社学術文庫。
13．ヨセフス『ユダヤ戦記』山本書店、『ユダヤ古代誌』ちくま学芸文庫。
14．秦剛平『ヨセフス――イエス時代の歴史家』ちくま学芸文庫。
15．佐藤研『聖書時代史　新約篇』岩波書店。
16．Ｇ・タイセン『新約聖書――歴史・文学・宗教』教文館。
17．フィオレンツァ『知恵なる神の開かれた家』新教出版社。